

進捗状況の概要（1 ページ以内）

「学内の実施体制について」

学長をはじめ、学長補佐、両学部長（国際教養学部及び教育学部）及び両学部の教員各1名を中心としたIR推進委員会でAP事業を推進し、主に教員から成る4つのワーキンググループ（以下、WG）が具体的な活動を実施している。平成29年度は昨年度と同様に、大学全体でAP事業に取り組めるように、各WGが合計4回のFD研修会を実施し、学内でのAP事業推進を行った。また、毎年度末に外部評価委員会を開催し、外部からの評価及び意見を取り入れ、AP事業を実施している。

「中心となる取組について」

本学は開学以来、「ALによるCT能力の育成」が教育の中核であり、AP事業においても、eポートフォリオやルーブリックの導入により、この教育を発展させることが取組の中心である。4つのWGが活動しており、中心となる取組は以下の通りである。1. ALの実態把握・体系化及び事例集作成、そして、FDを通じての教員の指導力の向上。2. CT能力の可視化のためのテスト開発。3. ルーブリックによる学修のPDCAの確立。4. eポートフォリオ上での学修成果の可視化。平成29年度も、ALの調査、CTテストの実施、ルーブリックの改良、そして、e-ポートフォリオの活用を中心に活動した。

「取組の成果について」

平成29年度の主な取組の成果は、継続的に行っているALの手法の教員調査の他、「eポートフォリオを活用したAL」に関するFDを実施し、ALの教育的実践力を向上させたことである。作成したCTテストも、継続的に学生に対して実施し、データを収集・分析し、テストの向上に役立てた。「ALを通じたCT能力の育成」を実現するために、CT能力の育成に焦点を当てたALの手法に関する議論を行い、平成30年度に予定しているAL事例集の作成への取組も進んだ。これにより、効果的なALを学内で効率的かつ効果的に普及させ、学生への教育効果を高めることができる。学修成果の可視化のためのeポートフォリオの活用も更に進み、英語で授業をする国際教養学部で特に重要な英語力に関するページの開発が進んだ。また、ルーブリックの活用に関しては、ディプロマ・ポリシー（以下、DP）に沿ったルーブリックを、学生が自己評価しやすい「～できる」という形式で示した「Can-do」の文章に変更し、DPの教育目標達成のためのルーブリックへと改訂した。今年度のe-ポートフォリオ及びルーブリックWGの取組により、学生が学修成果をe-ポートフォリオ上で管理し、その能力の向上に努めることができる。各WGがFD研修会を通して、学内でのAP事業を推進することができた。最後に、宮崎県内で平成29年度の取組を発表するシンポジウムを実施し、学外への波及に努めた。

「補助期間終了後の継続発展に向けた取組について」

補助期間終了後の継続的展開を考慮し、平成29年度末には、これまで以上にIR推進委員会主体で実施できる体制へと移行し、補助期間終了後も継続する予定である。また、平成29年度には、ALの事例集を収集するホームページの構想をまとめた。平成30年以降、そのホームページ上でALの事例集を収集・共有することでAP事業終了後も、円滑にALを推進できる。

「学内外への波及効果」

平成28年度は、本取組を発表するシンポジウムを東京で開催し、平成29年度は、宮崎県内でシンポジウムを開催した。県内外から計60人（内部を含む）が参加し、その中にはAP校からの参加もあり、質疑応答の時間を設けることで、今後の取組に参考となる情報交換を行うことができた。また、ALに関するポスター発表をカナダの国際学会で行った。更に取組全体に対する口頭発表をアメリカの評価学会で行い、本取組及びAPの結果発表に努めた。